

Wi-Fi使いICT施工

宮坂建設工業が札幌でi-Conセミナー



山間部でWi-Fiを取り入れた効果などを紹介した

宮坂建設工業(帯広)は4日、札幌サンプラザでi-Conセミナーを開いた。日立建機と日立建機日本が協賛し、国や道など発注機関や建設会社から230人が参加。電波の通らない不感地帯での課題解決方法やWi-Fiを生かしたICT施工について説明した。現場での実例を挙げながら、関係機関とICTへの理解を一層深めるため開催。戸松義博執行役員副社長は「誰もが働きやすく、新しい働き方が可能となる建設現場を想像する一環として役に立つ取り組みになれば」と期待を寄せた。

北海道横断自動車道陸別町小利別改良工事の現場代理人である宮坂建設工業の西本広行氏は、電波の届かない山間部や人家のまばらな地域でのICT施工の活用と課題について説明。同工事の課題である山間部の携帯電話の不達を、日立建機の通信環境改善ソリューションによるWi-Fiエリアの構築により解決した。連絡やICT施工、施工管理、情報共有などが改善された。

続いて、改善された効果を宮坂建設工業ICTソリューション部の稲船晃サフリーダーが解説。ICTソリューション部は、2019年度に新設し、現場の事務作業やICTの支援をしている。ICT施工については、携帯電波の受信が可能となったことからVRS方式を採用。狭あい部や構造物周辺など適用範囲が大幅に改善された。

ICTソリューション部の今後の活動については、拡大が予想される高速度通信技術を今の技術とどうマッチングさせ生産性を高めていけるか、手軽に取り入れやすい方法を考え実践する方針だ。

宮坂建設工業がi-Conセミナー 不感地帯でWi-Fi ICT活用 先進事例を紹介

宮坂建設工業(帯広)宮坂寿文社長は4日、札幌サンプラザでi-Conセミナーを開いた。山間部等通信が困難な不感地帯でのICT施工活用の経緯と効果を紹介した。

ICTの先進的な取組を広く発信し、i-Conの一層の普及促進に寄与しようと開催したもので、今回



関係者230人が先進的な取組に耳を傾けた

が3回目の開催。同社の取組に全面的に協力した日立建機(株)、日立建機日本(株)が協賛。関係者約230人が参加した。

戸松義博執行役員副社長は「今回は山間部で携帯がつながらない現場が多いという、北海道特有の課題に取り組んだものとなっている。AIや5Gの普及など業界を取り巻く環境が変化する中、革新的な技術の導きの移動が必要だった」と述べ、改善に向け「Solution Linkage Wi-Fi」を導入したことを説明した。

同システムは電波取得可能エリアに親機を設置、子機で中継しWi-Fi電波を取得するもので、子機は連続した中継することが可能となっている。

この後、ICTソリューションサフリーダーの稲船晃氏が導入による効果として、①連絡手段②ICT施工③施工管理④情報共有の4点を挙げた。

具体的には「連絡手段」では外部との連絡が容易になり、ラインのグループトーク等の利用で「緊急時」の連絡も迅速に行えることとなった」と解説した。

「ICT施工」では曲線形状のマシンコントロール施工という新たな取組に挑戦。「施工管理」ではウェアラブルカメラを設置したことで、スマホからでも作業状況や、検査の様子もつぶさに確認できるようになったと報告した。

また、「情報共有」ではクラウドの活用により、現場から遠く離れた会社からもデータの共有や俊敏な現場支援での有効性を示した。

稲船氏は「忙しい皆さんがしっかりと現場に集中し、会社が現場をバックアップできる環境づくりに向け、今後も様々な可能性を追求していきたい」と意欲を示していた。